

2/28~3/13

# 春先は火災の多発期

## 春の全国火災予防運動



二月、三月は空気が非常に乾燥し、強い風が吹くことが多く、加えて暖房器具などの火気使用などもあって、一年のうちでも火災の多い時期です。火災による犠牲者も多く、五十二年は、この二か月間で年間死者の約三割を占めています。今年も、二月二十八日から三月十三日まで、「春の全国火災予防運動」が行われます。

### 移動する火元 摂氏七〇〇度

## たばこが火災原因のトップ

出火の原因で最も多いのは、たばこの不始末で、昭和三十五年以来連続十八年間、件数・損害額ともにトップの座を占めています。

もに移動し、生活のあらゆる場所で、一歩間違えば出火の原因になる危険性を秘めています。たばこは火源としては小さいが、燃焼温度は七〇〇度〜八〇〇度です。



す。私たちの身の回りには、この温度以下で着火する可燃物がたくさんあります。

たばこを吸う方は、いま一度正しい喫煙管理の実行を心がけてください。

### 投げ捨て、落下、消し忘れ

## たばこの“三大失火原因”

五十二年中のたばこによる火災は、全国で九千六十九件発生し、損害額は約百二十一億円と前年に比べて十四億円も増えています。さて、愛煙家は全国で約三千五百万人。つまり、国民の三人に一人が、一日当たり男性約二十四本、女性約十六本、合計すると、一日に全国で約八億二千五百万本のたばこが吸われている計算になります。

たばこによる火災で多いのは、投げ捨てによるもので、六割（五千四百六件）を占めています。これは、そのほとんどが喫煙者のマナーの悪さが原因しています。捨てた吸いがらが、老朽化した床板に落ちて火事になったり、車の中からポイと投げ捨てたのが紙や芝草、踏み板などに燃え移ったりするので。また、たばこによる林野火災の千二百七十二件は、

消し忘れなども含めて、大部分が喫煙者の不注意によるものです。投げ捨てに次いで多いのが、灰皿などに置いていたたばこが落ちたもので、千二百四十九件（一四％）。三番目が、消し忘れで、八百六十三件（約一割）です。

これら、投げ捨て、落下、消し忘れを合わせると七千五百十八件となり、たばこによる火災全体の約八三％にもなります。

たばこによる火災が減らないのは、喫煙者の“自己管理”の不徹底にあるといえましょう。

### 出火原因

## たき火による火災増える

出火原因で、たばこに次いで多いのが、たき火です。たき火による火災は、五十一年に比べて二百三十四件増え、六千八百五十件も発生しています。損害額も二十四億円にのぼりました。たき火の場合、最も多いのが延焼拡大。つまり、たき火の火がだんだん広がっていき、手がつけられないまま火災になってしまったというものが、全体の七割。次いで、火の粉の飛び火二八％となっています。

二月、三月は空気が乾燥し、強風の時期ですから、たき火には、きわめて危険な季節といえます。

**健康**

二月一日〜七日は  
成人病予防週間

◎人は血管とともに老いる  
四十一万九千三百六十五人、一年間（五十二年）に、これだけ多くの方が成人病で亡くなっています。総死亡者、六十九万七十四人のうち、なんと六〇・七％を占めています。亡くなった方のうち、四人に一人が脳卒中、五人に一人ががん、六・五人に一人が心臓病ということになります。

人は血管とともに老いる、といわれます。四十代、五十代といえど油断は禁物です。成人病の“元凶”といわれる高血圧は、四十代で一六％、五十代では三〇％、六十代は四二％、七十代になると五四％で、二人に一人は“高血圧者”なのです。

年齢に応じた食事と適度な運動で、ふだんから健康の自己管理に気を配りましょう。

◎成人病予防は血圧の管理から  
だれでもできる、そして一番大切な成人病の予防は、血圧の管理です。そのためには、まず自分の血圧を知らなくてはなりません。何回か測ってみて、自分の本当の血圧を覚えておきましょう。血圧が最高一六〇、最低九五以上の方は、塩分のとりすぎに注意しましょう。